

# 1に避難、2に避難 とにかく避難、 ただ避難

## 揺れを甘く見ない

津波は強い地震のときだけ襲ってくるというものではありません。かすかに遠くに感じる揺れ、非常にゆったりとした揺れ——。そんな地震でも大津波が襲来することもあります。「大したことはない」と勝手に決めつけしないで、とにかく「地震の揺れを感じたらすぐ避難」が鉄則です。

## 火災を防ぐ

津波は水だから火事など起こるわけがないと思いがちですが、そうではありません。平成5年の北海道奥尻島を襲った大津波では、火災が発生し一つの地区が焼失しました。避難の際は電気ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めるなど必ず「火の始末」をしましょう。

## 避難は声を掛け合って

避難は一刻を争います。「避難だ!」「急げ!」「避難袋、持った?」「おばあちゃんを手伝って」などと声を掛け合きましょう。

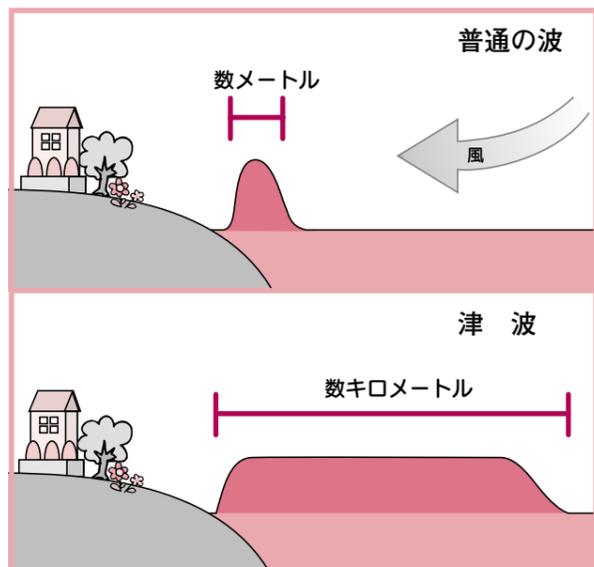
## 高齢者などの要援護者への助力

近所の高齢者や視覚、聴覚、四肢などの不自由な方、病弱、妊産婦、乳幼児のいる家庭など、行動や情報に不自由な人たちへの助力を!地域社会(向こう三軒両隣)で態勢を日ごろからつくっておきましょう。

## あなたの避難場所 確認してください

- ◆大沢 ふるさとセンター、魚賀波間神社、大沢小学校、八幡宮、切り通し、大沢林道、袴田裏山、南陽寺
- ◆山田 山田北小学校、善慶寺、お寺山、後楽墓地、山田町第一保育所、中央公民館、中央コミュニティセンター、保健センター、山田第二保育所、山田八幡宮、山田病院前、山田南小学校、さくら幼稚園、児童公園、おぐら山、飯岡防災センター
- ◆山田・織笠 三本小松、町民グラウンド、山田中学校、山田中学校北側線、山田体育館
- ◆織笠 織笠小学校、織笠保育園、織笠コミュニティセンター、跡浜裏山、館
- ◆船越 船越防災センター、船越保育園、船越小学校、B & G 海洋センター、山の内生活改善センター
- ◆田の浜 八幡宮、早川山、第2分団屯所、船越漁村センター
- ◆大浦 大浦小学校、大浦漁村センター、大浦保育園、霞露ヶ岳神社、秀全堂、林道大浦線、小谷鳥コミュニティセンター

## 津波の本性



津波の広がる速さは、水深200mで時速160km、太平洋の水深5,000m辺りでは時速800kmに達します。

普通の波と津波の一番の違いは波の長さ(波長)です。風が吹いて起きる普通の波の波長が数mなのに比べ、津波は地震による海底の変動で起きるため、数kmに及びます。このため海岸に押し寄せたとき、普通の波が一瞬で砕けてしまうのに対し、津波は洪水のような強い流れを伴って押し寄せます。

また、津波は何度も繰り返して襲ってくるほか、V字型の入り江や湾では、押し寄せる波が急激に高くなるなど、海の状態によって姿を大きく変えます。

ような意識を持っていないかにかかっています。津波注意報や警報がいくらか早く発令されたとしても、住民が避難しなければ意味がありません。多くの人が発令時に「自分には関係ない」「大したことはないだろう」と思い込んでいた傾向があります。津波対策では揺れを感じてから、いかに素早く避難を開始できるかが大きな鍵。万が一に備え、家族みんなで防災訓練に参加して避難経路などを確認したり、津波を知らない世代にしっかりと津波の恐ろしさを伝えたりするなど、家族や地域で津波について話し合っておきましょう。

**揺れを感じたらすぐ避難**  
日本は地震発生後三分で警報が出せる世界最先端の津波警戒システムを備えています。地震発生後わずか数分で津波が押し寄せるケースもあります。また津波に対する備えとして海岸沿いには防潮堤が造られていますが、防潮堤だけでは万全とはいえません。地震の揺れを感じたらテレビやラジオの津波情報を待たないで、すぐに安全な場所へ避難することが大切です。

◆問い合わせ 役場総務課防災担当 (☎82-3111) 内線415) へどうぞ。



昭和35年のチリ地震津波の惨状(織笠地区)

# 大津波は必ずやってくる

## あなたの備えは万全ですか

未曾有の被害と衝撃的な映像が全世界を駆け巡った昨年十二月のスマトラ島沖地震・津波——。過去に幾度となく津波被害に遭っているわたしたちの住む三陸地方も他人事ではありません。宮城県沖地震・津波の発生が高い確率で予測されている中で、わたしたちの津波への備えはどうあるべきなのか。ここでは、津波対策の基本的事項について紹介します。

### 津波防災マップの確認を

わたしたちの住む三陸沿岸には、約三千人の犠牲者を出した明治二十九年の三陸大津波や昭和三十五年のチリ地震津波など過去に何度も大津波が襲来しています。幸い昭和四十三年の十勝沖地震以来、大きな津波は発生していませんが、政府の地震調査委員会は、平成十七年一月一日を基点として宮城県沖地震(マグニチュード7.5前後)の場合によっては8.0前後が発生する確率を、十年以内に五〇%程度、三十年以内に九九%と発表しています。これは「近い将来、必ず大津波が来る」とを意味しています。

町では、平成十四年九月に津波に対する心得や浸水予想区域図、各地区の避難場所などを盛り込んだ「山田町津波防災マップ」を作製し、豊間根地区などを除く各家庭に配布しています。津波防災マップは、多くの人に津波危険地帯に住んでいるということを認識してもらうためのもので、一度、家族みんなで確認しておきましょう。

また、昨年十一月には、県が沿岸十三市町村を対象に津波浸水予測図を作製しました。想定は明治三陸大津波の再来、昭和

### 普段から津波への備えを

津波からいかにして身を守るか——。それはわたしたち一人ひとりが、普段からどのような備えを行い、津波に対してどの

三陸大津波の再来、想定宮城県沖連動(複数の震源が同時に作用して起きる)地震とし、それぞれ防潮堤などの津波防災施設が機能した場合と機能しなかった場合の全六ケース。平成十四年作製の山田町津波防災マップを基に作製されています。

ご覧になりたい方は、役場総務課へお越しになるか、県のホームページでご確認ください。

### 過去に町を襲った主な津波

津波	発生日月	被害の概要
明治三陸大津波	明治29年6月15日	流失家屋977戸、死者2,950人、負傷者1,370人
昭和三陸大津波	昭和8年3月3日	全半壊および流失家屋742戸、死者18人、負傷者12人
チリ地震津波	昭和35年5月24日	全半壊および流失家屋346戸、死者なし、負傷者2人、被害総額12億9,300万円
十勝沖地震津波	昭和43年5月16日	流失家屋なし、死傷者なし、被害総額5億2,900万円

資料: 山田町津波誌、広報やまだ